九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[044]言語文化論究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2560381

出版情報：言語文化論究. 44, 2020-03-13. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

個人研究業績一覧

（2018年11月～2019年10月）

言語環境学部門

言語教育学講座

伊藤　薫

【論文】

── 柴田大作，伊藤薫，若宮翔子，荒牧英治．2019.「対照群付き高齢者コーパスの構築とそれを用いた認知症予備軍スクリーニング技術の開発」『人工知能学会論文誌』34（4），pp. 1-9．2019年７月．

── Daisaku Shibata, Kaoru Ito, Hiroyuki Nagai, Taro Okahisa, Ayae Kinoshita, Eiji Aramaki. Idea density in Japanese for the early detection of dementiabased on narrative. *PLOS ONE*. 13（12）. e0208418. December, 2018.

【その他】

── 伊藤薫.「UD を利用した言語学研究の射程」，言語資源活用ワークショップ2019（LRW 2019），国立国語研究所，2019年９月４日.（招待講演）

── Kaoru Ito. Emergence of Rhetorical Effect: Figurative Language and Systems Theory. *The 15th International Cognitive Linguistics Conference*（*ICLC-15*）, Kwansei Gakuin University, Hyogo, Japan, August 5, 2019.（poster presentation）

井上　奈良彦

【論文】

──「ディベートを用いた証拠資料検証の可能性：大学英語授業における議論教育導入例から」『言語科学』（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）第54号，pp. 7-25，2019年３月．

【その他】

──「『議論学への招待：建設的なコミュニケーションのために』F. H. ファン・エイムレン，A. F. ヌヌック・ヘンケマンス（著），松坂ヒロシ，鈴木健（訳）」『英語教育』（大修館書店）第67巻 第10号（2018年12月号），p. 91．2018年11月14日.（書評）

──「ディベート・チーム：全米ディベート大会の記録映画に見る勝利への情熱と敗者の悲哀」九州大学言語文化研究院外国語週間英語企画．九州大学伊都キャンパス．2018年12月19日.（解説）

──「アカデミック・ディベートとアカデミック・ライティングにおける資料利用の諸問題」第177回言語研究会例会．九州大学伊都キャンパス．2019年２月７日.（口頭発表）

──「クリティカルシンキング学習のためのアプリ開発に向けた問題作成」第５回ディベート教育国際研究会大会．九州大学伊都キャンパス．2019年３月16日.（口頭発表）

──「『Is *Heliyon*, a mega journal from Elsevier, “predatory”?』と考えてみた」第182回言語研究

会例会．2019年７月18日．九州大学伊都キャンパス．（口頭発表）
――「Introduction to Debating」福岡県立宗像高等学校「総合的な学習（探究）の時間」．2019年10月５日．（出張講義）

大塚　知昇

【その他】
――「A Reconsideration on Weak-Phases」福岡言語学会，2019年度第３回例会（韓国 NGC joint meeting），福岡大学，2018年12月15日．（口頭発表）
――「Pair-Merged Arguments と Set-Merged Adjuncts」福岡理論言語学研究会，西南学院大学，2019年８月27日．（口頭発表）

カスヤン、アンドレアス　Andreas KASJAN

【その他】
――「九州大学におけるオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験受験対策授業と試験成果について」九州大学大学院言語文化研究院言語研究会，言語研究会2019年12月例会，九州大学言語文化研究院，2019年12月５日．（口頭発表）

辻野　裕紀

【その他】
――「悩める精神科医がものを書くとき：松嶋圭 × 辻野裕紀」，松嶋圭氏（精神科医・作家）との対談，於九州大学伊都キャンパス，2018年11月28日．（対談）
―― シンポジウム・公開講座「物語の〈終わり / 始まり〉：文学の現在，わたしたちの未来」，深沢潮氏（作家），温又柔氏（作家）との鼎談，於九州大学伊都キャンパス，2019年２月８日．（鼎談）
――「韓国語教科書＝韓国語教師の誤謬を剔抉する ――「文字と発音」を中心に ――」，九州大学大学院言語文化研究院中国語・韓国語合同 FD，於九州大学伊都キャンパス，2019年４月22日．（口頭発表）
――「韓国語音韻史の諸相 ―― 中世語を中心に ――」，第181回九州大学大学院言語文化研究院言語研究会，於九州大学伊都キャンパス，2019年６月６日．（口頭発表）
――「対談：悩める精神科医がものを書くとき（I）」（松嶋圭氏との対談），『言語文化論究』43，九州大学大学院言語文化研究院，pp. 89-100，2019年９月．（対談録）

土屋　智行

【その他】
―― Towards the Annotation of Formulaic Expressions in Spoken Corpora. The 15th Workshop on Linguistics of Spoken Language（話し言葉の言語学第15回ワークショップ）, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo Japan, December 27, 2018.（oral presentation）
―― Processing Conventionalized Sequences. No. 150 Shonan Meeting “Learning to communicate: Challenges in language learning by AI, robots and humans,” Shonan Village Center, The National

Institute of Informatics, Kanagawa, Japan, February 19th, 2019.（oral presentation）
――「大量の低頻度データを利用した言語分析の手法の検討」第16回異分野融合テキストマイニング研究会，福岡，2019年６月９日.（口頭発表）
――「言語の慣習性を中心とした言語研究の手法と展開」日本言語教育 ICT 学会2019研究大会，久留米大学，2019年９月７日.（招待講演）

松村　瑞子

【論文】
――「日本人女性の発話におけるアサーティブネス ―― ノン・アサーティブネスは女性の特徴か，日本人の特徴か？ ――」『言語科学』（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）第54号，pp. 27-36，2019年３月.

【その他】
――『平成30年度　日本語資料集』（九州大学大学院地球社会統合科学府）松村瑞子・単艾婷（編集），2019年３月.（資料集）

言語環境学部門
言語情報学講座
内田　諭

【論文】
―― Kazuki Ashihara, Tomoyuki Kajiwara, Yuki Arase and Satoru Uchida, Contextualized word representations for multi-sense embedding, *Proceedings of the 32nd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation*, pp. 28-36, 2018年12月.
―― 芦原和樹・荒瀬由紀・内田諭「CEFR レベルを付与した語彙的換言データセットの構築」『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』pp. 803-806，pp. 2019年３月.
―― T. Tangiuchi, D. Mochihashi, T. Nagai, S. Uchida, N. Inoue, I. Kobayashi, T. Nakamura, Y. Hagiwara, N. Iwahashi and T. Inamura, Survey on frontiers of language and robotics, *Advanced Robotics*, 33（15-16）, pp. 700-730, 2019年６月.
―― 工藤洋路・内田諭「既習の文法事項の使用を促す英語のライティング課題の設計」『言文論究』43，pp. 13-26，2019年10月.

【その他】
―― Kazuki Ashihara, Tomoyuki Kajiwara, Yuki Arase and Satoru Uchida, Contextualized word representations for multi-sense embedding, The 32nd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation（PACLIC 32）, 2018年12月.（ポスター発表）
―― 竹中野歩・久保健治・加藤彰・内田諭・金子晃介・蓮見二郎・青木滋之・山形伸二・是澤克哉・井上奈良彦「クリティカルシンキング教育に有効なアクティブラーニング型教材アプリの開発・検証：進捗報告」第５回ディベート教育国際研究会大会，2019年３月.（口頭発表）
―― 内田諭「英語学習者の語彙発達：コーパスから見えてくること」第28回広島大学外国語教育研究センター 外国語教育研究集会，2019年３月.（口頭発表）
―― 内田諭「和英連語辞書の構築に向けて：必要性と課題」JACET 英語語彙・英語辞書・リー

ディング研究会合同研究会，2019年３月.（口頭発表）

── 内田諭「CEFR-J Text Profile の紹介と活用法」CEFR-J 2019 シンポジウム in 京都，2019年３月.（口頭発表）

── 芦原和樹・荒瀬由紀・内田諭「CEFR レベルを付与した語彙的換言データセットの構築」言語処理学会第25回年次大会，2019年３月.（口頭発表）

── 芦原和樹・梶原智之・荒瀬由紀・内田諭「文脈ベクトルと細分化した単語ベクトルを用いた語彙的換言」NLP 若手の会 第14回シンポジウム（YANS2019），2019年８月.（ポスター発表）

── 石井康毅・内田諭「英語コーパスの利用で英語論文作成はどのように変わるか」学術英語学会，2019年９月.（口頭発表）

── 工藤洋路・内田諭「特定の文法事項抽出のためのライティング課題の設計：学習者コーパス構築への示唆」第45回英語コーパス学会，2019年10月.（口頭発表）

── Satoru Uchida, *Linguistic category and metaphorical extension*, No.150 NII Shonan Meeting, 2019年２月.（口頭発表）

── 内田諭・南里豪志「大規模コーパスを用いた CEFR レベル別の英語コロケーションおよびフレーズの抽出」第45回英語コーパス学会，2019年10月.（口頭発表）

ウロブレスキ、グレゴリ ジョン　Greggory WROBLEWSKI

【論文】（Articles）

── Wroblewski, G; Islam, MN; Yanai, A; Jahan, MR; Masumoto, KH; Shinoda K. Distribution of HAP1-immunoreactive cells in the retrosplenial–retrohippocampal area of adult rat brain and its application to a refined neuroanatomical understanding of the region. Neuroscience 394, pp. 109-126, December 2018.

江口　巧

【論文】

──「位置変化を内在する状態変化表現 ── 単一経路の制約をめぐって ──」『英語英文学論叢』（九州大学大学院言語文化研究院英語科）第69集，pp. 1-22，2019年３月.（単著）

大津 隆広

【論文】

── From Justification to Modulation: Similarities and Differences of *after all* and *datte*. *Pragmatics & Cognition* 25: 2, pp. 337-362, John Benjamins. October 2019. DOI: 10.1075/pc.17028.ots

── In Other Words と I Mean ── 関連性理論の立場から，日本英文学会九州支部第71回大会 Proceedings（web 掲載）2019年10月．http://kyushu-elsj.sakura.ne.jp/proceedings2018.html

【その他】

── *In Other Words* and *I Mean*: Reformulation and Metarepresentation. 4th International Conference of the American Pragmatics Association, University at Albany, State University of New York, November 2, 2018.（Oral Presentation）

── Multiple Occurrences of Discourse Markers and Fillers: Combination Patterns and Complex

Procedures. 16th International Pragmatics Conference, Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, June 13, 2019.（Oral Presentation）

鈴木　右文

【その他】

――「海外短期プログラムの渡航手続きをめぐって ――国籍で異なる査証取得と旅券紛失の対策はどこまで ――」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第69集，pp. 37-52，2019年３月．

――「九州大学の新英語カリキュラムについて」『第67回九州地区大学教育研究協議会発表論文集』（九州地区大学教育研究会），pp. 55-60，2019年３月．

――「学術英作文とプレゼンテーションの科目の教材作成プロジェクト」Q-Conference 2018（九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク），九州大学伊都キャンパス，2018年12月22日．（共同ポスター発表）

――「2018年度新英語カリキュラムの挑戦」九州大学大学院言語文化研究院高大連携英語教育懇話会，2019年３月27日．（講演）

――「パスポート」「中小レンタカー」「戦後の首相」「サッチャーの時代」「紅茶（3）」「ファイルと文房具」「中東問題」「アイルランド問題」「紅茶（4）」「ランチ」「ブレクジット（1）」「ブレクジット（2）」「紅茶（5）」「会議」「メージャーの時代」「ブレアの時代」「チーズ」「郵便」FM 福岡『QTPro モーニングビジネス スクール』，2018年11月～2019年10月．（ラジオ）

――「コスタリカの奇跡」「沖縄スパイ戦史」「華氏119」「愛と法」「地獄の黙示録　特別完全版」「福島は語る」「約束　名張毒ぶどう酒事件死刑囚の生涯」「RGB 最強の85才」「主戦場」「新聞記者」「The Best of Enemies」『反戦情報』410-421号（417/418は合併号），2018年11月～2019年10月．（コラム）

田中　俊也

【論文】

――「ゲルマン語動詞体系における過去現在動詞と強変化動詞の相対年代をめぐって：オストホフの法則の観点から」『英語英文学論叢』第69集，pp. 23-35，2019年３月．

【その他】

―― ‘English *uncouth* ‘rude, socially unacceptable’’ 九州大学言語研究会 第178回例会，2019年３月７日．（口頭発表）

山村　ひろみ

【論文】

――「日本語母語話者にとっての「過去の出来事」・「過去の状況」とスペイン語の「点過去」・「線過去」の使い分け」，『言語科学』（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）第54号，pp. 37-54，2019年３月．（単著）

【その他】

――『解説がくわしいスペイン語の作文［改訂版］』，全159ページ，白水社，2019年５月．（単著）

――「スペイン語の未来と過去未来 ―― その機能的異同について」（日本フランス語学会2019年度シンポジウム「ポルトガル語，スペイン語，フランス語の時制と叙法の対照・比較」の中で），日本フランス語学会，成城大学，2019年５月25日．（口頭発表）

――「再考：スペイン語の「未来」の諸用法と「未来」の機能 ―― スペイン語「未来」の統一的機能を求めて ――」，日本スペイン語学セミナー（SELE2019），2019年８月29日，つま恋リゾート彩の郷．（口頭発表）

横森　大輔

【論文】

―― ENDO, Tomoko, and Daisuke YOKOMORI. 2018. “Interactional functions of verbalizing trouble: Self-addressed questions in Japanese conversation,” Shin Fukuda, Mary Shin Kim, and Mee-Jeong Park（Eds.）, *Japanese/Korean Linguistics* 25, CSLI Publications, pp. 327-339. 2018年12月．

―― 横森大輔．2018．「グループの外の声を聞く：大学英語授業内グループワークの相互行為分析から」，村田和代（編）『聞き手行動のコミュニケーション学』，ひつじ書房，pp. 111-133. 2018年12月．

【その他】

―― 横森大輔．「日英語の反応発話における韻律バリエーションと参与地位：「ほんとう／Really」を例に」，シンポジウム「日常会話コーパス」IV，2019年３月４日．（ポスター発表）

―― 増田将伸・横森大輔．「言葉の読み上げによる参与構造の創発 ―― 授業内グループワークの事例から ――」，シンポジウム「日常会話コーパス」IV，2019年３月４日．（ポスター発表）

―― YOKOMORI, Daisuke. When to withhold a reference to a head noun: a study of turn-final use of the complementizer *toiu/tteyuu* in Japanese conversation, *The 16th International Pragmatics Conference*, Hong Kong Polytechnic University, June 2019.（口頭発表）

―― MASUDA, Masanobu, and Daisuke YOKOMORI. Self-talk creating a participation framework: reading text aloud in class activities, *The 16th International Pragmatics Conference*, Hong Kong Polytechnic University, June 2019.（口頭発表）

レイカー、スティーブン　Stephen LAKER

【その他 Others/Miscellaneous】

―― Managing editor of *North-Western European Language Evolution*（NOWELE）, oversaw issues 73.1, 73.2 plus special series volume 32 *The Carthaginian North* by R. Mailhammer & Th. Vennemann.

―― Hines, John & Nelleke IJssennagger（eds.）. 2017. *Frisians and Their North Sea Neighbours: From the Fifth Century to the Viking Age*. Woodbridge: Boydell. *Speculum*（2019）94（3）, 842-844.（book review）

―― New urban and rural British English varieties in the Northeast. *English in Contact*, Kyushu University, Nishijin Plaza, 29 March 2018.（oral presentation）

―― Pre-English place-names: Distribution and phonology. JSHL Annual Conference 8, Tokyo University, Komaba Campus, 16 Dec. 2018.（oral presentation）

―― Conference Organizer, English in Contact, Nishijin Plaza 28-29 March 2019.

—— External examiner, PhD Linguistics, Edinburgh University, Scotland, August 2019.

国際文化共生学部門
国際文化学講座
秋吉　收

【論文】

——「周氏兄弟と『新青年』—— 版本調査に基づく新たな視角 ——」『文化論集第55号：「周作人国際学術シンポジウム」特集号』103～126頁，早稲田大学商学同攻会，2019年９月．

——「成仿吾与魯迅『野草』」『魯迅在伝統与世界之間』（ISBN: 9787511560100）孫郁主編［張夢陽ほか28名執筆］2019年５月，人民日報出版社（北京）刊（「2017年度中央高等建設世界一流大学特色発展引導専項資金」による出版），324-337頁．（単行本，分担執筆）

【その他】

——「“台湾的魯迅”与日本語版《阿Ｑ正伝》」『魯迅與中国現代文芸復興思潮国際学術研討会暨2018年中国魯迅研究会年会学術論文集』中国魯迅研究会・海南師範大学文学院，485～493頁，2018年11月．

——「印度詩人泰戈爾與魯迅的時代」『魯迅與五四新文化 —— 紀念五四運動一百周年国際学術研討会暨2019年中国魯迅研究会年会学術論文集（下）』中国魯迅研究会・湖南大学文学院，608～612頁，2019年９月．

—— 書評：井波律子編訳『中国奇想小説集　古今異界万華鏡』「書き手たちの必死で奔放な思い」2019年１月５日『西日本新聞』第８面「読書」欄．

【口頭発表】

——「“台湾的魯迅”与日本語版《阿Ｑ正伝》」中国魯迅研究会・海南師範大学文学院主催『魯迅與中国現代文芸復興思潮国際学術研討会暨2018年中国魯迅研究会年会』於海南師範大学，2018年11月15日．

——「第二言語教育と時代相 —— 日中戦時下における中国語教育瞥見」『第一回北東アジア言語教育研究会』於九州大学西新プラザ，2019年３月２日．

—— 講演「魯迅『野草』新論 —— 與日本現代文学的交流為中心」『中南大学文学与新聞伝播学院学術講座』於中国長沙市 中南大学，2019年９月20日．

——「印度詩人泰戈爾與魯迅的時代」中国魯迅研究会・湖南大学文学院主催『魯迅與五四新文化 —— 紀念五四運動一百周年国際学術研討会暨2019年中国魯迅研究会年会』於湖南大学，2019年９月21日．

倉方　健作

【論文】

——「「エピグラフの近代性【モデルニテ】ヴェルレーヌによる実践を例に」『フランス文学論集』（九州フランス文学会）第53号，pp. 1-15，2018年11月．

——「シャルル・ド・シヴリ（1848-1900）「シャ・ノワール」以前、以後」『シャンソン・フランセーズ研究』（シャンソン研究会）第10号，pp. 1-16，2018年12月．

——「ヴェルレーヌとモンティセリ」『STELLA』（九州大学フランス語フランス文学研究会）第37号，pp. 167-174，2018年12月．

—— Verlaine lecteur de Desbordes-Valmore, *Revue Verlaine*（Classiques Garnier）, no 16, pp. 63-69, 2019. 4.

【その他】

——「跛行と韻律」，九州大学大学院言語文化研究院主催シンポジウム「現代における揺れ動く身体と言語」，九州大学西新プラザ，2019年３月17日.（口頭発表）

——「詩人たちのリュクサンブール公園」，日本フランス語フランス文学会2019年度春季大会，成城大学，2019年５月26日.（口頭発表）

——「レ・ロマネスク TOBI 著，奥野武範構成・文『レ・ロマネスク TOBI のひどい目。』」『ふらんす』（白水社），2019年３月号，p. 67.（書評）

——「ギヨーム・ド・ベルティエ・ド・ソヴィニー著，鹿島茂監訳，楠瀬正浩訳『フランス史』」『週間読書人』，2019年８月９日号.（書評）

——「フツブンことはじめ（特集：ブンガクと愛）」，『ふらんす』（白水社），2019年11月号，pp. 14-15.（コラム）

——「ぐるりマレショー物語」（8）～（19），『ふらんす』（白水社），2018年11月号-2019年10月号.（連載コラム）

佐藤　正則

【論文】

——「ボグダーノフにおける人間と物との関係の再構築」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）第43号，pp. 1-11頁，2019年９月.

【その他】

——「桑野隆『20世紀ロシア思想史　宗教・革命・言語』」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）第42，pp. 65-68，2019年３月.（書評）

——「西山美久『ロシアの愛国主義 —— プーチンが進める国民統合 ——』」『政治研究』（九州大学政治研究会）第66号，pp. 89-95，2019年３月.（書評）

——「建神主義」沼野充義・望月哲男・池田嘉郎編集代表『ロシア文化事典』丸善出版，pp. 592-593頁，2019年10月.（事典項目）

——「革命期ロシアにおける人間と物の関係の再構築」シンポジウム『現代における揺れ動く身体と言語』（九州大学大学院言語文化研究院主催），九州大学，2019年３月17日.（口頭発表）

中里見　敬

【著書】

——『『春水』手稿と日中の文学交流 —— 周作人、謝冰心、濱一衛』花書院，全255頁，2019年３月.（編著）

【論文】

——「一九三四年夏、周作人・郭沫若面会の背景：「銭玄同致周作人書簡」を手掛かりとして」『郭沫若研究会報』（日本郭沫若研究会事務局）第20号，pp. 25-28，2018年12月.（単著）

——「九州大学附属図書館濱文庫所蔵の『春水』手稿：周作人、冰心、濱一衛」『『春水』手稿と日中の文学交流 —— 周作人、謝冰心、濱一衛』（花書院）pp. 5-27，2019年３月.（単著）

——「1934年夏周作人郭沫若会面背景考察：以“銭玄同致周作人函”爲線索」『文化論集』（早

稲田大学商学同攷会）第55号（「周作人国際学術シンポジウム」特集号），pp. 647-663，2019年９月．（共著）

【その他】

――「《傷逝》的独白和自由間接引語：從叙述学和風格学角度作一探討」『近代文学研究』第113期（オンライン論文集，微信号：jindaiwenxue），2018年12月３日．（論文の転載）

――「外国語プレゼンテーション（暗誦部門）での新たな取り組み：評価の基準と課題」2018年度中国語・韓国語合同 FD，2019年１月29，31日．（口頭発表）

――「留学史研究の現状について」『霞山日本同窓会 NEWS LETTER』（霞山会）第38号，pp. 6-8，2019年４月．（共著）

――「謝冰心『春水』の自筆原稿　九州大学で１世紀ぶりに発見」『日中友好新聞』第2478号，2019年４月15日．（単著）

――「中国の芝居番付〈戯単〉――戦前の日本人学者が見た中国の名優と名舞台」九州大学附属図書館，2019年８月26～30日．（展示会）

――「濱一衛的三次訪華及其観劇活動：濱文庫所蔵戯単考察」首届“戯單、劇場與二十世紀上半葉的東亞演劇”學術研討會，九州大学，pp. 279-294，2019年８月28日．（単著，口頭発表，予稿集）

――『首届“戯單、劇場與二十世紀上半葉的東亞演劇”學術研討會論文集』九州大學言語文化研究院，中國人民大學國學院，全364頁，2019年８月．（シンポジウム論文集，編集）

浜本　裕美

【著書】

――「アキレウスとヘクトルの一騎打ち――比喩表現と視点の多様性」川島重成・古澤ゆう子・小林薫（編）『ホメロス『イリアス』への招待』，ピナケス出版，pp. 199-222，2019年３月．（共著）

【その他】

――「吉武純夫『ギリシア悲劇と「美しい死」』Pp. xi+266 +104，名古屋大学出版会，2018」『西洋古典学研究』67号，pp. 112-4，2019年３月．（書評）

――「告発する dramatic monologue――バレット・ブラウニングと子供を葬る逃亡奴隷（シンポジウム「詩と革新」）」日本英文学会九州支部，『日本英文学会九州支部第71回大会 Proceedings』，http://kyushu-elsj.sakura.ne.jp/proceedings2018.html, 2019年10月．（プロシーディングス）

劉　驫

【論文】

――「输入频次对虚词习得方面的影响――以词尾“了１”和句尾“了２”为例」『福岡大学人文論叢』第51巻，第２号，pp. 497-509，2019年９月．（共著）

――「探索词尾“了１”和句尾“了２”更为有效的教学方法――从“指导顺序”、“句法结构”、“输入频次”和“输入间隔”的角度出发」『言語科学』（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）第54号，pp. 55-64，2019年３月．（単著）

――「日语母语者汉语虚词习得研究――以“着”、“过”、“就”、“才”为例」『福岡大学人文論叢』

第50巻，第３号，pp. 835-849，2018年12月．（共著）

【その他】

――「インプットの頻度と機能語の学習効果とのかかわり」次世代大学教育研究会（次世代の中国語教育を考える会），九州大学西新プラザ，2019年８月．（口頭発表）

――「二次元的物体に用いる中国語類別詞『片』『张』『扇』『面』について」第67回九州中国学会，尚絅大学，2019年５月．（口頭発表）

国際文化共生学部門

国際共生学講座

阿部　吉雄

【資料（調査）】

――「資料調査：上海のユダヤ人難民社会における冬期貧民救済事業（1943～1944年）」『言語科学』（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）第54号，pp. 65-75，2019年２月．

――「資料調査：上海ユダヤ人ゲットーでの1944年３月14日の火災」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）第23号，pp. 49-58，2019年３月．

岡本　太助

【著書】

―― 小谷耕二編『ホームランドの政治学 ―― アメリカ文学における帰属と越境』開文社出版，全286頁，2019年３月．（共著）

【その他】

――「北米文学における母性とディストピア」九州大学大学院言語文化研究院主催シンポジウム「現代における揺れ動く身体と言語」，九州大学西新プラザ，2019年３月17日．（口頭発表）

――「比較文学的母性論 ―― Hawthorne，Faulkner，Atwood から Parks と現代日本文学へ」九州アメリカ文学会，第65回大会，琉球大学，2019年５月11日．（口頭発表）

―― 矢倉喬士，岡本太助「アメリカ文学を実況プレイ！ ―― 遊んで読み解く『レッド・デッド・リデンプション２』」本のあるところ ajiro，2019年６月15日．（トークイベント）

――「ミュージカル研究序説 ―― コミュニティ形成と人種表象から「読み直す」アメリカン・ミュージカル」日本アメリカ演劇学会，第９回大会，クロスウェーブ梅田，2019年８月24日．（講演）

――「なぜいきなり歌って踊りだすのだろう ―― アメリカン・ミュージカル研究概論」九州大学大学院言語文化研究院言語研究会，例会，九州大学 EC541 会議室，2019年10月３日．（口頭発表）

――「ブロードウェイ・ミュージカルにおける人種とコミュニティ」日本英文学会九州支部，第72回大会，熊本県立大学，2019年10月27日．（招待発表）

――「巽孝之『盗まれた廃墟 ―― ポール・ド・マンのアメリカ』」『英文學研究』95巻，日本英文学会，pp. 141-145，2018年12月１日．（書評）

鈴木　隆子

【研究ノート】

――「多文化共生教育に関する事例研究――ニューカレドニアの小学校における地域学習の導入――」『言語文化論究』第43号，九州大学大学院言語文化研究院，73-87頁．2019年９月．

【その他】

―― Autonomous Learning gained by Escuela Nueva primary schools in Colombia: Comparison between Grades 6 and 9, Comparative and International Education Research Forum, National University of Mongolia, Ulaanbaatar, September 19-20, 2019.（oral presentation）

―― Autonomous Learning gained by Escuela Nueva primary schools in Colombia: Comparison between Grades 6 and 9, the 62th Comparative and International Society of Education, San Francisco, April 14-18, 2019.（oral presentation）

―― Autonomous Learning gained by Escuela Nueva primary schools in Colombia: Comparison between Grades 6 and 9, Multigrade teaching international symposium, Kyushu University, November 24, 2018.（oral presentation）

谷口　秀子

【その他】

―― "The Silent Mothers in *Spirited Away* and Other Miyazaki Films", The 24th Biennial Congress of the International Research Society for Children's Literature（Stockholm City Conference Centre, Sweden）, August 15, 2019.（oral presentation）［2019年８月15日．（口頭発表）］

――「「賢さ」か「冒険」か――フェミニズム童話の翻訳をめぐって――」，第20回東アジア日本語・日本文化フォーラム（於 上海外国語大学（中国）），2019年３月26日．（基調講演）

―― "The Japanese Translations of Feminist Fairy Tales Written in English", Taiwan Children's Literature Research Association 8th Annual Conference（Soochow University, Taiwan）, November 24, 2018.（oral presentation）［2018年11月24日．（口頭発表）］

蔦原　亮

【論文】

―― Tsutahara, Ryo.（2018a）. "Una clase sobre los usos de los verbos habituales basada en un índice marcador de la dificultad de aprendizaje". *Revista foro de profesores de español como lengua extranjera*, 14, 365-374. Universidad de Valencia. Diciembre 2018.

―― Tsutahara, Ryo.（2018b）. "Las colocaciones "verbo de apoyo + nombre eventivo": un estudio comparativo español-inglés". *Hispánica*, 62, 27-51. Asociación Japonesa de Hispanistas. Marzo 2019.

【その他（いずれも口頭発表）】

―― Tsutahara, Ryo. "Enseñanza de verbos polisémicos basado en corpus -en el caso de "ECHAR"-.". *VII Jornadas de formación de profesores en Hong Kong*. Marzo 2019.

―― 蔦原亮「軽動詞としての echar――コロケーションの観点から――」日本ロマンス語学会，第 57 回大会，清泉女子大学 Mayo 2019.

ハズウェル、クリストファー ガレス　Christopher G. HASWELL

【論文】（Articles）

――「Teaching Assistant Programs Utilizing International Students in Japanese Universities」『九州大学言文論究 No. 43』pp. 45-60，2019年10月．

【その他】（Others）

――「TA programs with international students」44th JALT International Conference，Shizuoka，2018年11月26日．（口頭発表）

――「Achieving the aims of internationalization utilizing international teaching assistants」Language in Focus International Conference, Dubrovnik, Croatia, 2019年05月03日．（口頭発表）

――「Measuring student engagement with an English language learning app」Language in Focus International Conference, Dubrovnik, Croatia, 2019年05月03日．（with M. Praver）（口頭発表）

――「Modelling motion within and between linguistic realms」6th Conference on Global Higher Education, Lakeland International University, Tokyo, 2019年６月８日．（with A. Hahn）（口頭発表）

――「Measuring student engagement with an English language learning app」A-MODE International Conference, Rome, Italy, 2019年06月20日．（with M. Praver）（口頭発表）

――「Content Based Instruction in L2 Learning」31st JACET Kyushu-Okinawa Chapter Conference, Kumamoto, 2019年07月13日．（with R. Fujita & M. Rodriguez-Yagi）（Panel）（口頭発表）

福元　圭太

【その他】

――「精神物理学の射程――フェヒナーとは誰だったのか」モルフォロギア（ゲーテ自然科学の集い），九州研究会，福岡大学，2019年７月27日．（口頭発表）